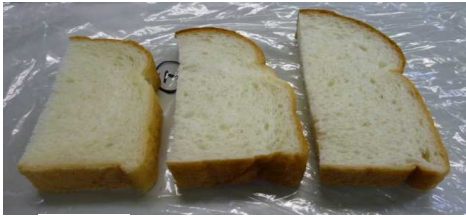


# 被覆尿素肥料による小麦「せときらら」の高タンパク化省力施肥体系の開発

## 【背景・目的・成果】

パン用小麦「せときらら」で美味しいパンを焼くために、播種前に基肥、栽培中にも窒素肥料を3～4回追肥しますが、麦が大きくなってからの追肥は、専用の機械や多くの手間が必要になります。そこで、被覆尿素(栽培中にじわじわと効いてくるタイプの窒素肥料)を基肥に用いることで、追肥を省略しながら、収量とタンパク質含有率12%を確保する施肥方法を確立しました。

「せときらら」は製パン適性が高く収量も多い品種ですが、高タンパク化に不可欠な穂揃期の追肥(実肥)は6kg/10aと多量で施肥作業も手間であり、省力的な施肥体系の開発が望まれていました。



7%      12%      13.5%

実タンパク質含有率の異なる食パンの膨らみ加減の違い(12%以上で良好)

## 「せときらら」の高タンパク化に向けた窒素肥料施用体系

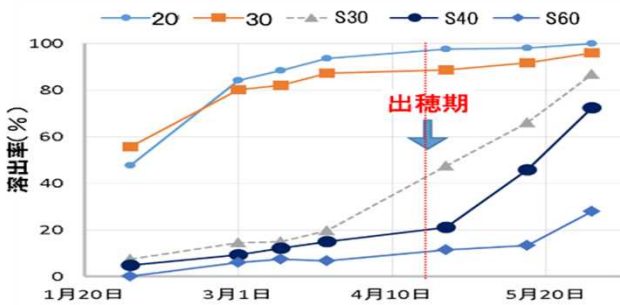
10a当たりの窒素成分量(kg/10a)				施肥成分合計 kg/10a	施肥回数
基肥	分けつ肥	穂肥	実肥		
11月10日	2月初旬	3月初旬	穂揃期	17～20	4回
6	2	3～6	6		



## 「被覆尿素」を活用して追肥回数を削減

「せときらら」の施肥回数削減に向けて、窒素成分の溶け出す日数や溶け出し方を制御した「被覆尿素」の適用性を検討しました。

その結果、収穫量の確保には「LP20」、高タンパク化には「LPS40」が適していました。



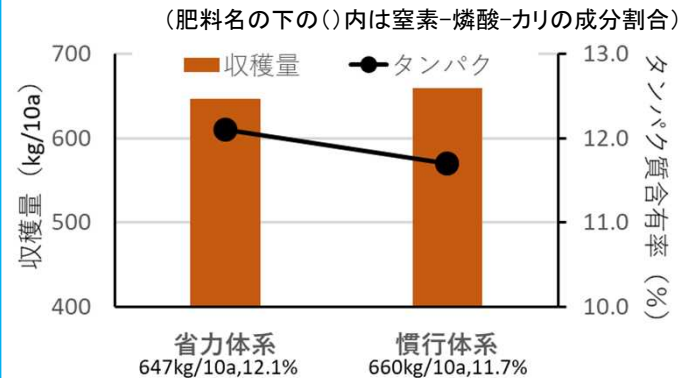
各種被覆尿素における成分溶出率の推移(上図)及び収量とタンパク質含有率(下表)

被覆尿素溶出タイプ	子実収量 g/m <sup>2</sup>	タンパク質含有率 %
LPS40	520	12.6
LPS60	369	10.7
LP20	653	9.0
LP30	642	8.7
無肥料	286	7.9

## 「被覆尿素」の基肥全量施用による省力施肥体系

「LP20」と「LPS40」を配合して種子と同じ位置に施用する「基肥全量播種溝施用」と分けつ肥のみの省力体系において、追肥2回分の省力化と、多収と高タンパク化の両立が可能となりました。

試験区	10a当たりの窒素成分(kg/10a)				窒素合計
	基肥	分けつ肥	穂肥	実肥	
	11月20日	1月20日	2月28日	5月2日	
省力体系	20	5.6	0	0	25.6
	LP20:LPS40 1:4(41-0-0)	PKセーブ (14-8-8)			
分施(慣行)体系	8.8	4.2	4.2	6.3	23.5
	麦専用2288 (22-8-8)	硫安 (21-0-0)	硫安	硫安	



## 【技術の活用】

「せときらら」の栽培者のうち、施肥の省力化を望む経営体や、肥料を均一散布できる乗用管理機等を持たない生産者を対象にした栽培暦に反映し、普及を図ります。

